

石山・芸術の森地域 石山部会 ニュース

石山・芸術の森地域では、平成 26 年度に「石山・芸術の森地域学校規模適正化検討委員会」を設置し、それ以降、地域の 4 小学校を対象に学校規模適正化についての検討を進めてきました。また、平成 27 年度からは「部会制」を導入し、「石山部会（石山小学校・石山南小学校）」と「芸術の森部会（常盤小学校・石山東小学校）」に分かれて、より具体的な検討を進めています。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

第 9 回石山部会について

平成 28 年 12 月 15 日（木曜日）午前 10 時から、石山南小学校で第 9 回石山部会を開催し、校名案の公募結果等を踏まえ新設校の校名について検討しました。また、まちづくり政策局都市計画部から、石山南小学校の跡活用に係る基礎調査を開始する旨の説明がありました。

校名案の公募結果について（報告）

校名案の公募結果について、事務局から報告がありました。

<結果概要>

- 公募期間：平成 28 年 10 月 1 日～11 月 18 日
- 応募数：567 件（児童：355 件、その他：212 件）
- 校名案：222 件（読み方が同じものは 1 件に集約）

応募が 10 件以上の校名案（五十音順）

校名案	主な理由
石切山	原点に回帰。地域の歴史を未来に伝えたい。両校で新しい未来を「切」り開く。
石山 (いしやま)	なじみや歴史がある。自身の母校。シンプルで所在地も明確。 (柔らかく親しみやすい名称。幼児から高齢の方までわかりやすい表記)
石山自然	自然や緑が豊かな地域。いつまでも自然豊かであってほしい。
石山中央	地域のほぼ中央に立地。地域や両小学校の中心になってほしい。
石山なかよし	みんな仲良しだから。新しい友達とも仲良くなりたいから。
石山軟石 (石山なんせき)	石山発祥の軟石。石山の代名詞。 (両校の「南」と「石」の読み。柔「軟」な思考と、強い意志（石）を持った子どもに育てて欲しい。)
石山緑	石山緑地をはじめ多くの緑に囲まれた環境。 子どもが自然や緑と気軽に触れ合える学校になってほしい。
石山未来	子どもたちの明るい未来を象徴。未来へ続く学校になってほしい。
石山緑地 (いしやま緑地)	緑豊かな地域のシンボル。石山が誇る施設。 (平仮名にすることで、よりやさしくあたたかい印象)
なかよし	みんなが仲良しになれるように。

応募が2～9件の校名案（五十音順）

石山あいさつ通り・石山青空・石山青葉・石山朝日・石山いちょうの木・石山北・石山希望・石山元気・石山紅葉・石山桜・石山新葉・石山すずかけ・石山第一・いしやまだいち・石山通・石山ともだち・石山ニコニコ・石山の森（石山の杜）・石山光・石山二葉・石山ふるさと・石山ふれあい・石山緑の森・石山緑町・石山わくわく・輝石・キラキラ・キラリン・元気・光石・紅葉（こうよう）・札幌南石山・自然・新石切山・新石山・石南・だいいち・たのしい石山・ともだち・なかよし友だち・軟石・緑山・南山・わにおうさま

その他の校名案（五十音順）

あいさつ石山・あけぼの・穴の川・石神・石切・石切山中央・石切山緑・石切の里いしやま・石南山・石の町・いしのやま・石山あいさつ・いしやまあお・いしやまいし・石山えいきゅう・石山えがお・石山笑仲・石山大空・いしやま大橋・石山おか・石山かいかん・（石山）かがやき・石山きずな友和・石山北公園・いしやまきみどり・石山共生・石山きらり友愛・石山銀杏・石山区南・石山区みん・石山グリーン・石山煌・石山虹羽・石山さくらだい・石山桜山・石山さわやか・石山自然緑・石山しよう・石山標・石山新・石山神社前・石山新生・いし山すぺしゃる・いし山すまいる・石山双志館・石山創成・石山大ふぞく・石山たのしいいうれしい・石山ダブル・石山地域・石山町・石山南星・石山中央なんせき・石山とく・石山友・石山中南・石山軟石南・石山西・石山日新・石山の里・いしやまはっぴい・石山プラス・石山平和・石山ぼかぼか・石山星空・石山ポプラ・石山まちづくり・石山緑色・石山緑岡・石山緑が丘・石山緑幸・石山緑の自然・石山南・石山南思い出・いし山みなみく・石山南中央・石山みなみの杜・石山本・いしやまもみじ・石山やまなみ・石山ゆい・石山友来・石山ゆたか・石山夢希望・石山夢楽・石山よつば・石山楽園・石山ラッキー・石山緑森・石山緑楽・石山緑光・石山黎明・いしやまれいんぼう・石山ローソン・いしやま若草・いしやま若葉・いちょうの木・きずな・「きつうさ」・希望・希望の里石山・「希望の学び舎」石山・きらり・きらりなかよし・光彩・最新きん未来型石山・さくら・桜山南・札なん・幸せ・しあわせいっぱい・しせいかん・自然ふれあい・じゆう・静町・新生石山・森林・すずかけ・せかい・切代・大しぜん・だいち・たのしい・楽しい石山アンド南・楽しく元きな石山南・たのしさ・つきみ・ていねい・ともだちいっぱい・なかよしともだち・南京・軟石の郷・軟石山・南中・はじめて・ピカピカ・平岸通り石山・二つ葉・ふれあい・べんきょう・豊石・まどでまもるからまいにちかぜやあめも・緑・緑あふれる石山・緑石山・緑風・緑のめぐみ・緑ゆたか・南・南区石山・南区石山五輪・南区石山しょういち・南緑風・南山緑・みらい・みんなたのしくなかよく・みんなの石山・明緑・もーきつ・ゆきたな南・ゆめの星・四ツ葉・ラビット・緑地公園・緑南・緑光・6ねんかんつづく・わくわく石山

- ※ 趣旨が異なると思われるものを除き、読み方が同じ校名案（漢字の校名案と平仮名の校名案等）は、1件にまとめて記載しています。
- ※ 紙面の都合から個別の理由等は記載を省略していますが、応募いただいた全てのご意見は部会で事務局から報告されています。

～たくさんのご応募、本当にありがとうございました～

皆さまの協力のおかげで567件もの応募が集まりました。ご応募いただいた皆さまをはじめ、応募用紙の配架・配布等にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。

地域の皆さまから 寄せられた意見 (報告)

9月に開催した第8回部会以降、地域の皆さまから寄せられたご意見について、事務局から6件の報告がありました。

- 新しい小学校の校歌は、石山小学校卒業生の大黒摩季さんをお願いしてはどうか。予算の関係等もあると思うが、ぜひ検討してほしい。
(平成28年10月 メール)

(事務局回答)

予算の関係等に加え、相手のある話であり、現時点で明確な回答はできませんが、地域の複数の方から同様のご意見を頂いており、今後、部会でも検討したいと考えています。

- 新築してまで統合する必要があるのか。通学路となる国道やラーメン屋の交差点などは事故も多い。ガードレールや歩道橋の設置が必要ではないか。校名などを検討するのは、交通安全を確保してからではないか。
(平成28年10月 電話)

(事務局回答)

通学路等の詳細は今後の検討となりますが、国道のガードレールや歩道橋については、道路管理者とも相談していきます。

- 今回の公募で新設校の開校が広く知れ渡ったと思う。地域や卒業生の母校への思いは大変大きく、落胆された方も多いのではないかと。子どもたちのために新しい校名が必要であるとの意見もあるが、子どもたちの希望や誇りは学校名だけで育むものではない。
- 地域ぐるみで子どもや学校を育てていくためには、地域の方の学校への親近感や愛着は非常に重要である。そういった気持ちを育むためにも、校名は検討委員会だけで決めるのではなく、今回の公募結果をもとにワークショップを開催するなどして決定した方がいいのではないかと。
(平成28年11月 来庁)

- 子どもたちには新しい学校と歴史を刻んでほしい。両校の歴史的資料等は、処分するのではなく、デジタル化してできるだけ保存してほしい。新設校のメモリアルスペースにも限りがあると思うので、石山南小学校を博物館のようなスペースとして活用してはどうか。
(平成28年12月 メール)

(事務局回答)

過去にも資料等をデジタル化した事例はあり、石山地区でも必要に応じて検討していきます。石山南小学校を「郷土資料等の展示施設に」とのご意見は複数の方から頂いており、今後、跡活用を検討する際の参考とさせていただきます。

- 石山南小学校の跡活用について、ミニ児童会館の継続、地域住民の集会所、体育館やグラウンドの地域開放、教室を塾にする、公園として開放する、民間会社に紹介するなど色々なことができると思う。また、施設面の検討だけでなく、後世に残る憩いの場となるよう検討してほしい。
(平成28年12月 FAX、電話)

- 学校がなくなることは、地域・卒業生にとっても重要なことである。こういった検討には、もっと早い時期から同窓会なども参加させるべきだったのではないか。
- 元をたどれば1つの学校であり、校名は「石山小学校」のままでいいのではないか。「石山」は町内会名などにも使われているほか、北海道開拓の重要な地名でもある。現校名を使用することで、子どもたちの間のいじめを心配する声も聞かすが、学校や地域が一体となって子どもを守り、伝統ある校名を残すべきではないかと思う。
- 一方で、決まったことに反対することで地域に禍根を残すことは同窓会にとって本意ではない。どうしても現校名が使用できないのであれば、「石山」を使った、「石山〇〇小学校」や「〇〇石山小学校」等の名称を検討してほしい。

(平成 28 年 12 月 要望書)

検討事項

◆ 校名の検討体制について

今後の校名の検討体制について、事務局から下記4案の説明がありました。

部会活用	案1) 現行の部会で検討
	案2) 現行の部会に委員を追加して検討
ワークショップ活用	案3) ワークショップ等で候補を絞り、部会で決定
	案4) 部会で候補を絞り、ワークショップ等で決定

◆ 石山南小学校の跡活用の検討について

石山南小学校の跡活用に関連して、まちづくり政策局都市計画部から下記の「石山南小学校跡活用検討業務」を開始する旨の説明がありました。

■ 受託業者

(株) シン技術コンサル

■ 業務期間

平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月

■ 業務内容

- ・跡活用で導入する機能（健康づくり、地域コミュニティ、医療・福祉、住宅、商業、教育・文化）の検討
- ・事業者への聞き取り調査や事業継続性の検討
- ・石山南小学校周辺の人口推移、地価の変動、立地状況等の調査など



- 活用案の検討・作成
- 活用案の実現可能性の検討
- 部会での検討に必要な前提条件の整理

◆校名案の公募結果について

委員から以下のようなご質問、ご意見がありました。

- これまでの検討で「新しい校名」という方向性は出ていたと思うが、一方で公募結果を見ると現校名への応募も多かった。今後の検討にあたり、どう考えていくのか整理が必要だと思う。
- 歴史や校名を残したいという気持ちはしっかり受け止めたうえで、未来ある子どもたちのために校名を検討していくべきだと思う。公募は多数決ではない。応募があったから方針が変わるとするのはおかしいのではないか。
- 様々な校名案が寄せられたが、一つの意見を押し付けようとは誰も考えていない。それぞれの立場でそれぞれの意見があると思うし、お互いに尊重したうえで大事な校名を決めていくべきだと思う。
- 確かに現校名への応募はあったが、全体から見れば大きな割合ではない。また児童からの応募も少数である。
- これまで新しい学校ということを前提に様々な検討をしてきた。公募で現校名に対してこれだけの応募があったという事実は非常に重たいものだが、子どもたちのためという観点はなくすべきではない。
- 同窓会の立場で言うと、率直に母校の名称を残したいという思いがあり、今回その旨の要望書も提出した。様々な意見があるのは承知しているが、できるなら今の校名を残したいと思っている。ただ、決まったことに反対して、地域で言い争いをしたいという趣旨では決してない。どうしても難しいなら、せめて地域の名称でもある「石山」を使った校名にしたい。
- 石山小学校の同窓会は明治の時代から続いている。そんな同窓会は珍しいし、当然、学校に対する思いも強い。これまでの歴史がゼロに戻るとなれば、今までの活動は何だったのかという思いもある。
- とにかく子どもを一番に考えている。平等なスタートラインで開校を迎えさせたい。今回、子どもたちの応募を見ると「お互いの学校の友達とも仲良くしたい」という趣旨の意見が圧倒的に多い。これが一番大切な観点なのではないかと思う。
- 地域や同窓会の方へは、これまでのまちづくりや子どもたちの見守りなど、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。以前、校名が変われば気持ちも離れてしまう、との意見もあったが、新しい名称になったとしても地元石山の子どもたちが通う学校であることに変わりはない。難しいことは重々承知しているが、なんとか今の気持ちを持ち続けてほしいと願っている。
- 他地域から石山に引っ越してきたが、慣れない土地、知り合いのいない不安の中、温かい地域の方々に支えられ、結婚・出産・育児をしてきた。本当にこの地域の皆さんには感謝している。この温かく、素晴らしい石山の歴史が途切れると考えるのではなく、この地域で新たな一步を踏み出せる、歴史を築いていけると考えれば、それは本当にすごいことだと思う。そんな大人の姿を見て、子どもたちも新たなことに挑戦していけるのではないかと思う。

- 子どもたちは新しい学校について一生懸命考えて校名を応募した。拙い、と感じる校名もあるかもしれないが、それを考えた気持ちをくみ取っていきたいと思う。子どもたちは物言えぬ弱者であり、我々はその代弁者としてしっかり検討をするべきだと思う。子どもたちに胸を張って説明できるような校名を決定していききたい。
- これまでの検討や、皆さんの意見、子どもの気持ちを踏まえると、「新しい校名」という方針は維持していくべきではないか。一方で、同窓会や地域の方々からのご意見にあったように、石山の学校ということが伝わるような形で今後の検討を進めていくべきではないか。
- 校名に関しては、様々な立場の方から本当に多くの意見や考え方が示されたように思う。委員が今日の結果をそれぞれ持ち帰り、具体的な校名の選考等は次回の部会で行うこととしてはどうか。

◆校名の検討体制 について

<ワークショップについて>

- ワークショップは考えを詰める、結論を出すという性格のものではなく、広く意見を聞いてみんなで理解するというもの。複数の校名案の中から絞り込む作業はワークショップになじみにくいとを感じる。
- 今回、子どもたちからもたくさんの応募があった。子どもが精一杯考えた気持ちや意見をどう吸収していくかが重要だと思う。その意味で、子どもの参加が難しいワークショップには疑問を感じる。
- 広く地域の方の意見を聞くことは必要だと思うが、公募でその目的は一定程度果たしているのではないか。
- この部会の委員の方々は、それぞれが組織や地域、保護者や子どもの代表として周囲の意見も踏まえたうえで参加・発言しており、すでに地域の広い範囲から意見集約は図られているように思う。
- ワークショップで再度地域の意見を聞くなら、今回の公募は何だったのか。また、ワークショップで結論を出すなら、この部会の存在意義は何なのかとなってしまう。地域の方からの意見は毎回報告されているし、内容は検討に反映させている。校名については、各種意見や公募結果をもとに、この部会で検討していけばいいのではないか。
- 部会の位置付けを考えると、我々はあくまで諮問された立場であり、最終的な決定権を持つわけではない。そのような中で、ワークショップや投票で決める、というのは筋が違うのではないか。
- このような形で公募を行った以上、寄せられた校名案の中から最終的な校名を選びきるのがこの部会の責任ではないか。大変な作業だと思うが、子どもたちの思いもしっかりくみ取って、この部会で一生懸命考えたということをしちんと理解してもらいながら、校名を決定する責任があるのではないかと思う。
- 今後具体化が見込まれる石山南小学校の跡活用を検討する際にも、地域の方の様々な意見やアイデアを集約していく必要がある。その際には是非ワークショップ等を活用すべきだと思う。

<部会への委員追加について>

- 校名や跡活用の検討が始まるため、今年度から同窓会や両校に関連の深い方等にも委員に加わっていただいた。より多くの意見を聞いて決めた方がいいのはその通りだが、さらに委員を追加すると、際限なく増えていくことになってしまうのではないかと。
- 基本的には、現在の委員でいいのではないかと。一方で、今回要望書をいただいたように同窓会の方等は古くから学校を支えてきており、当然様々な思いもあると思う。今年度から同窓会の方にも委員に就任いただいたが、必要あれば、もう少し人数を増やすことも検討していいのではないかと。

(事務局回答)

ご指摘のとおり同窓会からはすでに委員のご推薦をいただいております。追加の推薦が可能かについては、別途、関係者と相談します。

<その他のご意見等>

- 今年度から新しい委員も加わり、これまでと違う視点の意見も出てきている。校名決定は急がずに、来年度の中頃までじっくり時間をかけて検討してもいいのではないかと。
- 校名が決定しなければ、次に進めない部分もある。大変だと思うが、ある程度時間を区切って決断しなくてはいけないと思う。
- 今回の公募をきっかけに地域の方の注目が高まったと思うが、一方でこれまでの検討経過がしっかり伝わっていない部分もあると思う。場合によっては、関係する団体等へこれまでの検討経過を説明する必要があるのではないかと。

(事務局回答)

部会の検討内容については、原則、ニュース等で広く地域の皆さまにお伝えしていきたいと考えていますが、もし関係する団体様等からご要望があれば、随時事務局でご説明に伺いたいと考えています。

◆石山南小学校の跡活用の検討方法について

- 事業者への聞き取り調査とは何か。

(まちづくり政策局回答)

地域に必要な機能（健康づくり、地域コミュニティ、医療・福祉、住宅、商業、教育・文化）に関連する事業者に対し、事業の実現可能性や継続性等を聞き取る予定です。なお、事業者は、民間事業者やNPO法人等を想定しています。

- 今後の跡活用検討にあたり、道内他都市で学校統合した際の跡活用事例についても知りたい。

(まちづくり政策局回答)

全件は難しいですが、主なものについて次回部会でご報告したいと考えています。

決定事項

第9回石山部会では以下の方針を確認しました。

校名の検討においてワークショップ等を実施しないこととし、引き続きこの部会で検討していく。

校名については、子どもたちの視点や地名である「石山」という名称に十分配慮したうえで、「新しい校名」を検討していく。

今回の公募結果等を踏まえ、次回の部会から具体的な校名の絞り込みを行う。

事務局からの連絡

平成29年2月に開会予定の札幌市議会において「札幌市立学校設置条例」の改正を行いたいと考えています。

条例の改正は、平成29年秋以降に予定されている新設校の新築工事にあたり必要となるもので、現時点で想定している改正の概要は以下のとおりです。

【改正概要】

- 「石山小学校」と「石山南小学校」を統合して「石山地区小学校」（仮称）を新設
- 統合時期は平成31年4月

- ※ 上記条例改正の後、校名が決定した際には、改めて正式な校名で条例改正を行いたいと考えています。
- ※ 上記はあくまで事務局の想定であり、札幌市議会の審議等により内容・時期等が変更となる可能性があります。

第10回の石山部会について

第10回の石山部会は、引き続き新設校の校名及び跡活用の検討を議題とし、2月頃の開催を予定しています。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください ■

石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル
TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837
E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

- ※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載します。
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>